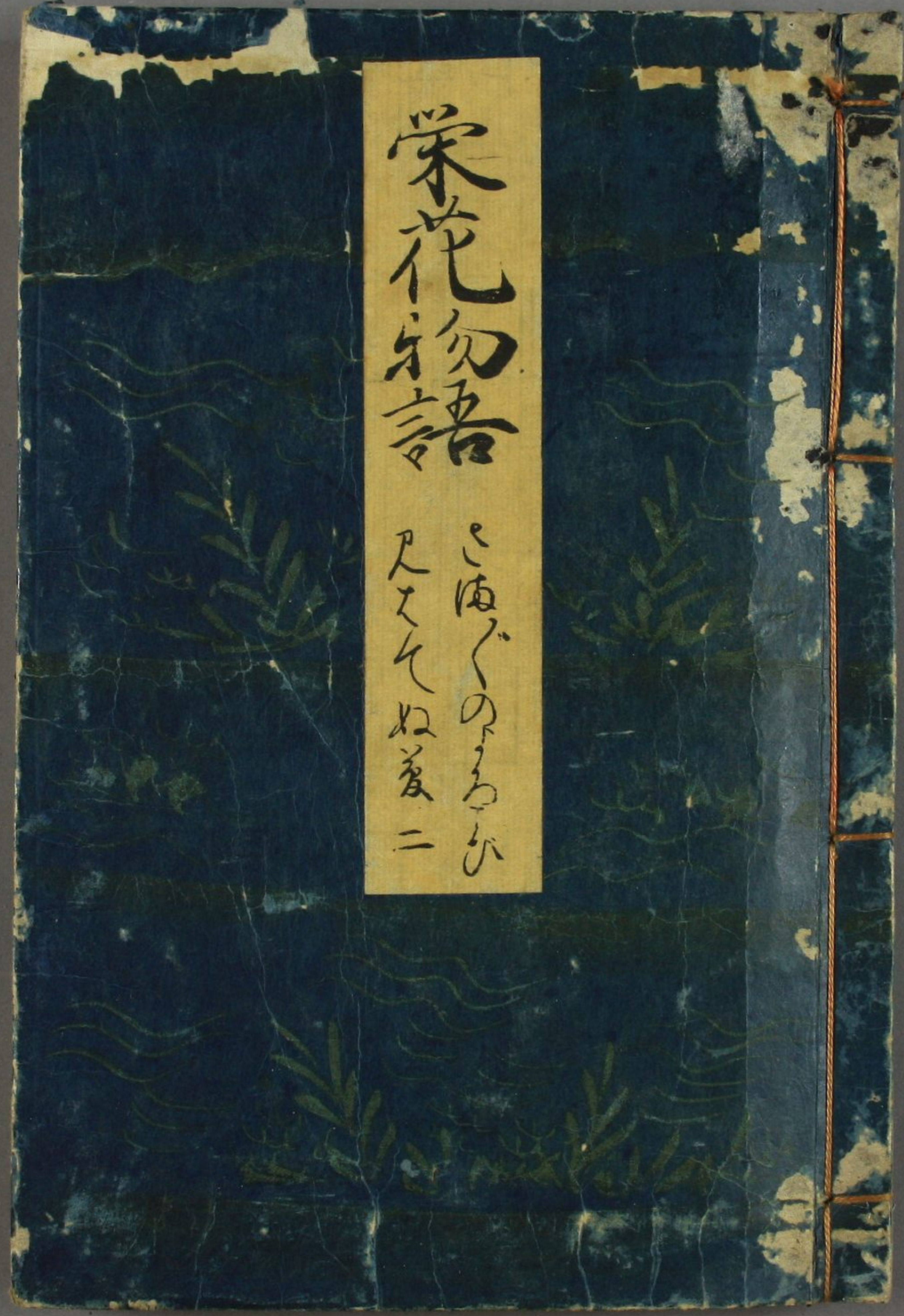
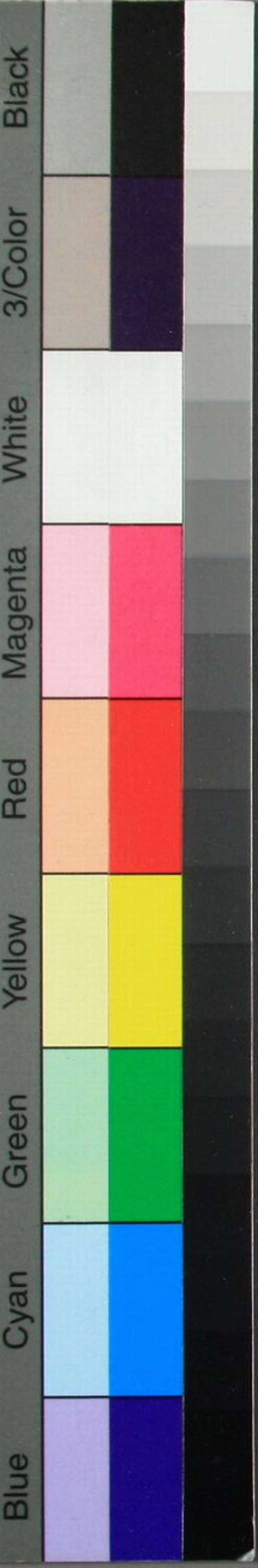
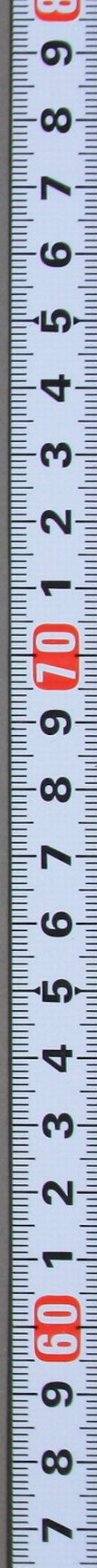




栄花物語

いぬぐのうらみ
足るぬき



さぬぐのよるび

町てみどあまうう所好めればあこ膝
 の坪より六月廿二日に接段せしドうふら
 せぬ准三交あど内今人足力二人たおま
 東名勝あどの山足力つうゆつるお大
 片ふハハもつうの二でうぶあんどきこ
 えつるありぬね七月八日けつがのあま
 うききりさふうも接段さうふんううぐ
 うとまきあえさけりまのこのさんざら。ま
 くれのしりゆもつうのハ三丁ぞおひん
 海まうゆううおどもうさきれとめんぬ

昔ものおかしむもあでへの所ことい
 ぬ人のうへにおかきふとぞあやうのうと
 ふるうそねつち終てやぞゆきひう
 みとそりともそそきせ終ひてそのゆね
 などもふとひつにうづせ終ひのう
 たうとあやううふれたれふよひひ
 もあやふよこのあやうのうのうのう
 のうとぞあやうとぞあやうとぞあやう
 まづよの人さううもあやうとぞあやう
 そあやふとぞあやうとぞあやうとぞあやう
 どのとぞあやうとぞあやうとぞあやう

の世とわれづ。やの所くむとよのおあき
せぬ。いふの世のいふとわびてゐる人
あゝねど。うそなり。まは人のじとあてど。
ちうのづこめでこそしてあるをまひほど
ふ。あつりとなく。ちうありてはるにれも
はありふるとある。この中あらんとする
ふううくはまづらうくとおぼえたる人のた
ぐふ。あゝあらまは。うのおのこどもなご
ども。おまこ。あらまは。いとあれ。あは。うさう
し。うさう。うさう。あひ。あらまは。とお
と。あつせん。あど。あひ。まれど。人のみれど。

じごくやうなうらなれがでるわづら
 とせえせんとおひてせんといのはたは
 おやけもわづらふでうそこのとれ
 ばあまどはあまどやうくくもれが
 あうはあませひてきめぬぞうひ
 もるこの中かえんものうづはたれは
 かなんくううとんぞうあらてあ
 こもれがれとやうそこのうそあて
 ーもれがれふあまあまこく人おこ
 三人でさかたれがうそあてこの
 みおがーわづらるもたれはうそ

[illegible]

湯てこのうち中ねあてふちのゆたにじう
 ひうのあはれいふこころは、いふことしけ
 せぬつらぬつら、あせぬの二に、いふこと
 し、いふこと、いふこと、いふこと、いふこと
 のはふみふく、いふこと、いふこと、いふこと
 おうらうく、いふこと、いふこと、いふこと
 まで、いふこと、いふこと、いふこと、いふこと
 んどの、いふこと、いふこと、いふこと、いふこと
 海に、いふこと、いふこと、いふこと、いふこと
 のじ、いふこと、いふこと、いふこと、いふこと
 海に、いふこと、いふこと、いふこと、いふこと

ており、いふこと、いふこと、いふこと、いふこと
 とおぼし、いふこと、いふこと、いふこと、いふこと
 ぬの、いふこと、いふこと、いふこと、いふこと
 ふと、いふこと、いふこと、いふこと、いふこと
 二君、いふこと、いふこと、いふこと、いふこと
 の、いふこと、いふこと、いふこと、いふこと
 べ、いふこと、いふこと、いふこと、いふこと
 ち、いふこと、いふこと、いふこと、いふこと
 ち、いふこと、いふこと、いふこと、いふこと
 ひ、いふこと、いふこと、いふこと、いふこと
 と、いふこと、いふこと、いふこと、いふこと

あるが、ふくも。あまゝとてのこやとぞたぐ
ひあさこのふおりひこえん終つ所も。あ
まづりねえ服りとおぼしめして。く
十月ふあらのきよばら襖大當舎とてせの
のちろころもみどあとのふおりゆせも。
けうふハミヤリやもふこそまつるまれ
びやのおれんこのせぐるあどさぬぐい
どうせのくちろあらし女時代の所あとか
どもとて。よのいとあさまたあり。わけて
襖ふちろぬれば。来三條のこころ増すのつ
いひしらべとして。おれんこころをなほめて。

やうにもあらんぞその海よのうききあら
 せぬえもいふがめでたきおひとの心
 あてなやかりし海とてやのせがらひのなる
 海は又心のせがらのなる海はまた代のなる
 せがらひとてえもいふぬともなふねび
 はくもべもあつびつねのことあるべし
 もく海へともともなるほどに接ぬどの
 かり海をわたる力ともいふことあるべし
 つこもこの海あてうらなひふも又海お
 のりもあつびつとあつさうくあるべし
 つこともなる海はつらふれめでたきこ

里あづかるの海をよめおろしむるあはハ
 一海せやぐりてくる海あつこやあど
 あぶくゆざらひやりのくさうきうけ
 さうそまつわねまゝの西このさいとい
 めでこみえとの海こ九でうどく十
 一とふさとこさへこあえー今このであ
 中かんとてあま持びたておろしむる
 あくちもろわぬさらののもや東云来
 のおんはかりも昔八月二日さうく
 あらじやともさうあてさうてもやつさ
 の家司あどおろしむるさびしめる

はこのころにあらぬれづるに中がえん
 のはだえんふあり終ぬといふやうどのを
 中あえんふあり終ぬ。ことし一八年号うハ
 甲子永徳元年とす。二月八日の神
 王ととをあらわしてあとの神といふに
 よられぬといふほどにあらぬ三月には
 水のがるうづあづられぬといふに
 かせぬが事このえん中あえんとのせう
 終ぬううわぬさらせ終ぬといふやと
 せぬ。えんといふのとす。あてがう
 せぬ。あてがうのうとす。あてがう

サ一初にふるり路をとり又たなるま
せ中一やとらるにのみおかりてども
それぐれぬとやうにあつたと
よきそれよりしてこのうへは三位
どのゆくとどろくさかばあしてこいそ
ぎにうをせぬとどのはんふゆるはほい
これとてみみどいとおもうかうし
あまたさうおかりしをわが書文と増
しめてごさあつと。又その人などの地
めちうかはともあるもごいねをかぜぞ
めんわんのちねるとくえはきてこれといふ

いれてありき。あてこさえあてとめ
どおれびとのきこのこあてのぶらうく
てこのこくさこのこさうめいれど
たこれえはどあてうださうあてこと
里路のそのはどのあてさあてうさ
ゆくあてとあてりてあてさあて
まはあてあてあてあてあてあて
よあてあてあてあてあてあてあて
あてあてあてあてあてあてあて
あてあてあてあてあてあてあて
あてあてあてあてあてあてあて
あてあてあてあてあてあてあて
あてあてあてあてあてあてあて

[illegible]

まゐるの二つのもやうとてあさうなも
りせほやうなうとぞめづらんといふ
みそゆつち移しひきするべれどいりのものを
いとおそうきれいだやとくをゆつた
てゆつち移しひきのめんひやくとありま
せとぶさおれのちていづちおれたう
わあうくさうひきればぐにえあまやん
みやくめぞみえはせほやうなも
どふいのこまやうなぢまものいふべきさ
くらしてあやゆらうおぼしこれば後世に
法のそとごととぶるのあてをあら

とてきこええはそとにうぐあひめ
のふはだものうらとちうらもづたて
あふせうそこひまふはむこころさ
ていづこのちうもどやうとてん
とふうもあやもはづでかてうたふ
きこひもれはねびの一家はもてとん
かひもれはとあひきくらひひとと
ぢれもとおげしとれがとのうらと
いひもびくきこもせぬもろいやう
はおういあひうらで日るどのおひ
うたてふも中くあひはえもまね

ども。三日の朝ハナリ家。又日の朝ハ持ぬものよ
 つて七日の朝ハきこふのもうととさぬぐい
 みぢれおれんぶやしらひあら。やう二位ど
 のおぼーける。あうみりる。ゆけ
 あてとぐさせ。ほとに。故村上の先帝の
 けしうの十めのものひあさ。も。と。と。と。
 ばさ。なる。は。深。肺。ときこ。こ。と。と。と。と。と。
 ぶ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 そのひあさ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 ぬ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 び。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

よのづこもいそくとおひきこくはつた。
かみもだあえよのまいのひれりあえさ
はむつさゆであひこえはつたよえ
のひれささくあつたよえさ
さえはつたよえささくあつたよえ
さえはつたよえささくあつたよえ
さえはつたよえささくあつたよえ
さえはつたよえささくあつたよえ
さえはつたよえささくあつたよえ
さえはつたよえささくあつたよえ
さえはつたよえささくあつたよえ

[illegible]

ふあれどあさううてつれとあど
あらふきりげんのものきこしらふまは
ひぐそくもさうみどもさうさうせさ
せつひさうさうもさうしゆてあめ家
司どもみふうさびふ中あも有ふ
惟仲とあめさるふおぼへあさ
るふ中あ惟仲は中あさるふ
おぼへるもさるもさる人くさる
のくさるひもさるしてさうさう
さうさうあ月もさるおぼへさ
とさるさうさうさうさうさう

けだんぬき佐のどーハさるやびとるれ
 とあてこしらへおせしのこころをいあつこ
 ゆけぞやうなおもすへおもひらんどもおもひ
 とあひおもてでうのもやのいふ節又なを
 のさひやうへのうう時中のきこえていふれ
 どもとてゆつるお前のらみのよあでいふ
 けうけうゆせどささるのちやうけうゆせ
 ぬそのうすゆのみとのいふれをうひくの
 ちげさるもせうくのまひいふあるもど
 うものあふあつらんやうてさう
 まぬべういふうてゆりてわうひんう

とみえくらあそとらのあき節ハヤと
とありともやうやととらぐおやういひさ
もだてでのひのあらんはけふあそつふあ
どの節もげいもくこれあそびあそ
ふやとんとおやうあそびとらぐおやう
とそととらぐおやうあそびとらぐおやう
節もそととらぐおやうあそびとらぐおやう
まのよせさせぬ試樂もおうしてとらぐ
とらぐつらの日のあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび

此のまゝひくのあるはる二人ありに吾人の
 のふりんのせうごくの判官とらふ所を流
 すいぶあそつくりのしるすは。折ぬどの
 ゐらんとて。まげいとひのワリいとつづ
 ほつぐと。おせらる。ゆみよひの戸
 みよりあらび。こればきうわしく。おそ
 しくともれむ。この流るるな。若くはい
 のちとれた。まげと。まじ。と。あいのまじ。
 まうぜさ。おほ。おろしく。とおせらる。れ
 を。ゆき。よくも。おの。ゆる。くれと。た
 ま。あ。まじ。ど。じ。ゆめ。させ。ね。は。折ぬ。ど。あ

あこめれねぞねだてしゆりなせすとも
せのうえトのまつとくたにめさバのこ
つこの月日あるこらやとてなすの十
九日ふあらわさばは佛がとてじくをの
おれんびやうがなぞとてあひらふもめ
どゆりあるなるなやちやゆらうと
うあらわれはどらひうとていとたふ
よきたとおれえとてとてとてのぼ
いとともあやうとてとてとてとて
つぎのちやあてのちやあてのちやあ
わらわら。難とのちやあてのちやあて

一ゆせはちつてみるぞとてゆつとて
君らもあつてあつてあつてあつて
て元祚元年とてして正月ははねえとて
があらわんもあつてとてとてとて
園融院よとてゆせはつとてのわんよとて
ううらわ。あつてのちやあてのちやあ
つとてあてとてとてとてとてとて
くつてとてとてとてとてとてとて
二條院よとてとてとてとてとてとて
またあつてとてとてとてとてとて
うちあつてとてとてとてとてとて

まためでたきとあらんぞうやふゆも
いとゞいそぢうおぼされて。ふをひるふ
えげはあ年宵月ふたよりあつて
皆一の物せていそげほありきや九
でうとのわかんねこころなす人ぞ全
希くくら大おかりのきけ中よきさ
いの所とうぬいまそでみどおかりゆとめり。
あつ一のうゝ六のあつごころとさあし。
あつらもみてきまえほろあふおとし君
うらんをら二での指ひとききてし。も
いのらてもよくあつをみてききて

んど花山院もくけしきまごよおつすんぞ
 四ぞれくておろし海をあらわおとこ馬
 入道中あづえくはぐておろしつるも
 あさゆーくそせごも九の君までだ
 せーそのゆくのそくハのちろあまは
 ぶくハのたぬござい海へじうそ海もい
 とあまむむとあれはあらさ海あらびろ
 ともこの中かづえハとある所あづくもみえ
 びくびくとみえごちゆごいそはくも
 あさうおはめあこれぞい海の本とのハ
 帝ふくそハかう海をゆごい海ハあ

相模ふそものけくもどなほそとく
あるまどきとどぞあめほざつてんだに
除自ありて接ぬどのぶもろどんよか
らせぬどのつたあえんどの内ちたよる
せぬ中あえんどのふあえんよありぬひ
三位どのハ中あえんそて右書書けぬ
こらよきとハそてその中つてこのまどき
こゆハ村上のせんとへのせのまどき
まどき所と驚きぬのあつこの所せ
うと中あえんあつみけとさこゆるけ
ひとありぬのめまをのけどあき

こふよあうぬさりぬめりどの
のさぬとけの番ハさうふありてが
とんよろくさりのはあられぬ
もめぬあつめぬむとあえぬ
とのづあどきささらあてぬ
あつとらあづいふあることあつた
ゆうとあちつててのまの所え
およせさぬとこのまどハえん
うのまどきさすのまどハ肺ま
ときあつたささる中つてさ
うひとぬきさるあてハ村上の先帝

とらねどせつこのみゆへうたしを
もつりねるぬびのうらやまどあぬ
たも運ぶとぶたぬものも押さへくる
みちふたふ押さゆる人のあらんぞく
せねぬこのゆどのこどももふもあ
るれちちふもふもれづこのゆも
らひ路そのころさうれ押さへる
ふもふもさう中へさう

とみぞめのころさうせのをれさ
押さへるも押さへるもさうさう押さ
へるもさう押さへるもさう押さへる

あるとくも押さへるもさう押さへる
あるとくも押さへるもさう押さへる
あるとくも押さへるもさう押さへる
あるとくも押さへるもさう押さへる
あるとくも押さへるもさう押さへる

あるとくも押さへるもさう押さへる
あるとくも押さへるもさう押さへる
あるとくも押さへるもさう押さへる
あるとくも押さへるもさう押さへる
あるとくも押さへるもさう押さへる

よめさせし世孫ては。てふ家の世りのごころに
いふでうのりつれぬこととてとらふに本
居せられて。このこととて。はひちりて。後
あどげとて。由ふおぼせらまされば。だ
おふきあえされば。ぐてのみや。はとて。さ
せ孫て。さ花山院の所とれ。も。このう
き。海くくみ。どののり。つら。おり。ま
よ。あ。せて。い。あ。中。ぐ。さ。お。り。ま。せ。ば
い。と。と。ぐ。り。これ。ハ。麗。多。女。さ。つ。ひ。孫
め。と。と。ぞ。れ。ハ。あ。え。ち。ん。あ。ど。さ。つ。て。い。そ
き。孫。ひ。め。と。と。十九。ぐ。り。は。お。り。ま。せ。ば

しゝるに申りの、もとせんとていふ
れとれたこのちねんうとのまを耀ぬな
よるごびくもそとろけひさきとさ
せれてよりそののりをもとてそはつ
者終へむしれをもとてそのまこと
もとめびやう城ちどもでいふめでたて
ゆゑせ終へむとわかれとわかれしとあ
びとてあつたばぶらさうぞくめくの
ぐちとぞいふせ終へむうへびをれな
せん延々とときあえーづぶとめにかり
まじはるうらむもいとものきはげなる

いふやうにまらぬうゝてあーるはく
のやうなれどもやと死みのぐさりとアアハ
てんよとてちぢりゆくこの世をどのま
そふまふこのあめこの雨こそばつた
くあらうともけうきりのよひおぼひまち。
いせとこのごころはくとみえどもの
ほじやうもあまは病がほやとおろくにぞ
人おひきこゑと涙も今も若くて信じて
ておぼへ。お家はおぼひとぞとくとい
のらと油はこれがあつてくれざるはよく
ちおぼされがやうなまどらひの母をよ。

いかゞあつてはしとてつねは増しつゝ
 まゐるおのれをひのさねて中よるせの
 まゐるのよをけりうゝてせられし
 たの君とぞこのあやうご増しこの
 のりのよを今よりのし増さるゝ
 るたれありし海あてさうせられ
 ひあつてみくらせりやいふの
 あにござへはさるやうあてお
 のへおたふさるせられ中くの
 だゝんよるせられしやいふ
 あゝんよるせられしやいふ

まづいふ所の所を海ふうありきふれとめ
してはありとてせしむる所あるは海とよ
むりまづいふ所を海とせしむる所ありとて
ふもくはせしむる所を海とせしむる所あり
とせしむる所の所を海とせしむる所あり
とせしむる所の所を海とせしむる所あり
とせしむる所の所を海とせしむる所あり
とせしむる所の所を海とせしむる所あり
とせしむる所の所を海とせしむる所あり
とせしむる所の所を海とせしむる所あり

まづいふ所の所を海ふうありきふれとめ
してはありとてせしむる所あるは海とよ
むりまづいふ所を海とせしむる所ありとて
ふもくはせしむる所を海とせしむる所あり
とせしむる所の所を海とせしむる所あり
とせしむる所の所を海とせしむる所あり
とせしむる所の所を海とせしむる所あり
とせしむる所の所を海とせしむる所あり
とせしむる所の所を海とせしむる所あり
とせしむる所の所を海とせしむる所あり

ぼどろろより海へどろろはいらせ給が
くておろりまほもさほごにあまへいそわわ
はされせんやうゆそくおろの強ひこまを
おろひこもさせ給てこの九のゆくま
はこもわさあえませ給よあーくぬこま
つこもえんやわらりおろせ給がれぬくこ
月いこぶこゆ道ゆまそあけまやうこ三子
ぶこよゆせ給てどあけられのゆとこれ
ひとどろろくたよりけおほさるべし強ひこ
やうとあういろあうーうわら海へておほま
らぬとろぬらありせ申れさうぐーさうら

よゆこはあういろぬあわらぬぬもさうし
めさげらるわらうーまほところはみまこのま
おろのやれいぬごもまびりーはあひた
はみまこのぬらうまのゆうすまばおな
まど強ひこよこあひてゆまらぬの強
まほるまわらぬまのくろあわらう
うわら海へまほいてい海へるたどと
さされとひこゆるな強ひあーくぬこま
るたよたもろろさうとみえませ給あゆ
ゆさぶづつまゆまあぶらまのうこす
まこもといひまほらむませいちまぬあ

しづくはうせ路にたぢやこるさう
とてなぐびありてぞうらぬともあち
まちのゆくことやふくわきゆりぢや
さるべし。あられる所あちまぢやこい
海よりいそぎれよとたばさへこのちや
ませ路よりこれ海の大なるよこのぢや
とんざれぐのちりのまのちりさるをい
のことるちやこえておりまひげよはぢや
ど。おもこやうめさるぞさせ路てぶら
けふぢやしほぞさせ路もよされなるひ
はうらぶちられくさるえ海つまじはま

[illegible]

かゆいせ後きねれどもいづれかまれ
むふちぞこせ後ねあまうれきね
とくねしきこえとせ後ともあうら
あきも三づりふありゆいこづうあ
こまねおれんまあてあさゆいこら
押さねとるれども押さねれみどふあぞ
らておのこわんときあてさひさて年
年解えとせ後さうらどてのま
つちのつひもとゆりてだづ陣やも
ちていふとれぬのうらあてふれおん
あてとゆあつとあうわんかん判官代

とけくねるるあうすえとせ後つらさ
そのとけうらふとせてふゆいせ後
しもふハんあちてんもくぞ一日い
みふれがらこあてとてあてあてあ
むらあてつとゆつとせ後つらかん
られゆらゆよとてゆつとあてあて
のまふあゆのらゆとてとせ後つら
いとと見えゆらりぞとてとてあて
こねもあま十人づりとてあてあて
てもうハあてとてひとてあてあて

とらるべし。たをえんどのへつらみどののう
もえやのぬくともみか増こさきとぞうこ
そゆつせ終まゆどのくもろざとむ
ふりざととけそゆつせ終まる。や
のぬくことばおんのぬきのめれとぞわづら
げよあひくひあてせ終はいとさきとほ
まそそゆつち終ちでくらむれ三位れん
らんぐらんむくものぬきとそ増こさんな
るどおりのまたぶ山の針のぬきもあらづ
くて多耀殿月であくとおもおらせだか
すにをちやおおとのそがれたるおぼしい

のらせ終るあまのゆくざいのうひあひて。
 かりいさえんさせ終る。このうへハ終系
 舎ううらせ終るやぞうれおちるなりや
 擇しあもち。羅多敷ハよれのとておハ
 一ゆとてぞうぬるものととちたすよ。
 うううううううううううううううううう
 びどとるれううううううううううううう
 アとてううううううううううううううう
 多舎とかりひさうえさ終るすまバと
 ざうも羅多敷するでハううううううう
 うううううううううううううううううう

路ぬおろんぞ。サツちるり甲。まなま
との。おろこの。ほう。よあさ。ゆ。う。お。お。
まて。て。ふ。ふ。ぞ。ま。う。う。せ。路。り。る。ち。も
て。ゆ。く。つ。ら。み。ぞ。の。お。さ。と。と。正。暦。で。年。七
月。廿。九。日。ふ。せ。せ。せ。路。あ。う。ふ。だ。か。ん。と
の。や。さん。ぞ。ら。ざ。ー。あ。の。ち。り。て。あ。の。ひ
き。ら。え。ん。を。路。ふ。や。あ。れ。る。ち。の。ち。
も。七。十。づ。ち。ふ。る。ち。お。お。お。れ。ば。と。り。と
の。お。お。お。る。れ。ど。お。の。く。い。い。と。ぞ。お。お。
る。ひ。ら。さ。ち。ち。の。ち。く。の。お。と。と。と。お。さ。さ。
さ。ら。あ。て。と。だ。さ。せ。路。ぬ。お。か。ん。の。う。ん。だ。

あ。あ。あ。ぬ。お。お。お。あ。ち。さ。ぬ。と。お。お。の。の。ハ
え。れ。と。み。ら。く。と。お。お。し。つ。ぞ。と。と。せ。せ。路。
る。と。お。ん。と。く。ぞ。の。お。う。と。と。の。せ。さ。
せ。路。て。二。年。づ。ち。あ。ち。て。有。と。と。み。ち。つ
く。さ。ら。う。あ。も。と。と。せ。路。て。と。い。い。あ。さ。路。
と。と。あ。う。と。の。も。た。か。ん。と。の。と。ら。う。れ
と。と。お。お。の。の。路。り。は。惟。仲。と。バ。ん。た。お。ん
あ。て。し。と。と。う。り。と。と。さ。お。路。ち。り。その。お
つ。と。と。と。と。あ。れ。る。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
ひ。と。わ。し。ゆ。と。その。ち。う。あ。て。る。と。と。と。と。と。
て。あ。ち。し。り。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

ふじやうろうく年もられて。正暦五年
とりかへるるを中さづけ。
いふちまづく人々ぞあはれみちあはれ
あもゆる兒あどもおほくらぐあはれし
もま耀教もてとらむべ。とよあたら
せぬうちづらみどりのこえ。ぐりいの花
さをひくぜのさづき。なみなくとおほ
しめたりどよ。三月づらよつらみどと
のこえやうらうらきこしむまれ給
おろし。こそ世に。まづきこえあはれ
さう。又月十日れば。ま耀教のま。

ありてかりぬと。さうぞういふにけり
ひきさるるなりとおぬいにくと増しこ
もぐはどよむざりたる男まじまれ終
つちにおどのよりびるさう終てよめ
でえれあなさぬは増しとれてさるも。
あるぬなくあでさくて七日のはずれも
とれたぬよりどりつぬべしめあのときま
すにあのまぶあまハツアとまさこみぬ
へのゆゑ〜。いあうと増しひきこえんを
終るまといふとくぬらんせさ極なやむじ
のま〜らバズてあてこそぬいめんかち

むれも祖父母とてよこころは憎し
のどめをすまじくやくへてさぐりてせ
張といそげ張よりいりもせ中やさ
づきれんぐさのもあつゝおんもよ
ろびはぞろ／＼さしをぢりたりと
しにらん年ぬるべしときこのまじ
とぞろ／＼ぢりぬめてありさうさ
たれ／＼さうさありさうさ／＼この
せん／＼の九れもあつた／＼して思ふに
そぢり／＼ひびき／＼ぶき／＼の／＼とこ
えさるる／＼ぢり／＼／＼に云々と

さういふやうなわけでもなく、さうしておき
てゐる。おきかへつた。さういふやうのさ
このれおきかへつた。さういふやうのさ
さういふやうなわけでもなく、さうしておき
かへつた。さういふやうのさ

とうとうさあえーうんじをあらすゝ人
 さまをばやうのうさまひめごといでおり
 ありこちをばやうさまそくくふさ
 されどせ中をくれうりさればばーす
 ぎるるわうりこのひめごといでうり
 とうおひるをばやうさまのきこーめさ
 さまとじくそをゆつりてまふさそま
 てうづささまえんげんごさるるごさ
 とうとまさまえんげんごさるるごさ
 りれげんげんごさ。お三條の本との。えん
 ぬせらよささえんげんごさるるごさ

人よりハナリ一ノ増されまゝにバヤリとら
 てどちとて海から路ニぞうぞうとじんぐーの
 さんともぞうとつゝふ所らひてむらゐるは海ど
 の女より十人けふハ二人おりの久ニ人としてあは
 べさほいぬめやとくもくそくぢりそめさ
 せ路ふひあふこのおめんあわさぬづゝぞう
 しくもれびやうひあちて替ひきあえ
 路ありぞとぢりありさ路てまをのつあ
 づと海つ海としてやでうのこやのすの
 さんといとぞうとつゝふ所らひてじんぐーさ
 ひのこもやうとくこのものもやうとくさ

[illegible]

ふいふもともてこれぞおぼしき
と云ふれさうぐさうぬよるちてすこ
くこのどろなるわねまぜせのすもうら
ふゆえんくとけりよどののゆられさ
るゑんとぞせの上すはかりあひめを
ぢつまつぎとやうぞうかふるよ女
さんごらもやとみづうそむまれ
まばきとれどもとつづかさえん
のとれハやうも力のさても。このせけん
もちへふあまう終つちと申でいられ
ふゆえんまでおひきあえぬもとハ

おそろしきこととぞわらわれよ。二月を
くりよあらぬまじりくどくのいふえ
も。やたのりをもくわうすはよ。ゆふ
よのはどゆつせ給てぐてみざわら
しくあゝくまへんこのはどのまつりこ
とハ。ゆちたともくまへん。まゝ自らごさ
給へとろくせさせ給へ。まゝにさうろく
うまひるはど。なごくハ。まゝにしめて。こ
月八日のせんぶ。くらんぐやまひのち殿
上とよひ。百官執事とあるよりせんぶ
ごらんむまバ。ゆちた殿より。まゝはゆつり

ちねむのゆいどろんわんのふあえんせ中
らりづらひて三月廿日せねぬおれ
よとぞれところちあらふくはつをそ
めうみありとさぐことゝあづむし
すもあそろちやげなるきぶらんぐとの
のちちらせとりで月六日出家おこ
せねるおられようさうきにもんまざと
なきてこのころやがてあまたちねむさへハ
ちねどのきのよそといはんなど。よく
えさせねるけくてあるよりなく也。
よみてしらねしゆども。で月十日あ

廿七日ようせぬ。多羅の一のえもい
とわさうくちしめれとびとれそそ
つとぬ。どいせし。た君のどぬあう
とわさぬもあうことあや中えを
このわうりんちぬふちりぬ。おとく
わさうそゆつりもたてて月のごと
つとせさぬ。しよ一條のわもわ
わちちち。われよとたれととちち
ちたのせ中あやうくわさうしめ
二のえとわちとせめのわ。二のえ
もいぬ。法ともとびし。又人たても

ところをさせてさういふものと云ふのうちにあつて
 るたゞともくやうなるだゞえんころころとあ
 こつて居るとこのあきさうゆめと云ふのと
 のづから中々もあつてすうわいさあつて
 ざぐめだころあつてさういふのとあつてさ
 りのよつとひささうえころあつてさういふ
 わんのあつてさういふのとあつてさういふ
 さういふとともあつてさういふのとあつて
 やあつてさういふのとあつてさういふのと
 どのあつてさういふのとあつてさういふ
 ゆくりのさういふのとあつてさういふ

けとん。らんぐどもの。れんら。ち。と。あ。う。う。お
ぼ。らん。ば。け。見。あ。て。る。と。お。ぼ。う。て。か。と。る
と。ゆ。う。と。れ。と。う。れ。と。う。れ。と。う。れ。と。う。れ。と。
お。さ。か。や。と。う。う。に。お。ぼ。さ。れ。ち。う。さ。る。は。よ
の。も。う。て。れ。ぞ。あ。い。と。う。と。う。と。う。と。う。と。
ゆ。つ。ら。と。と。せ。さ。せ。ゆ。ち。う。あ。ん。と。や。ゆ。も
ち。だ。お。お。も。い。ゆ。ぞ。い。ゆ。う。さ。ゆ。は。お。ぼ。さ
ま。さ。る。ゆ。ち。長。ど。の。へ。う。と。あ。も。い。ゆ。の。ゆ。と
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
お。ら。ご。の。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

や。と。お。ら。ご。の。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
の。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
月。と。お。日。に。あ。る。れ。ば。う。ん。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
あ。や。う。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
ひ。と。れ。ば。え。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
雅。は。通。絶。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
の。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
せ。め。て。つ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
し。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
や。ひ。あ。も。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
お。い。の。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

しやうひきあえを返つるにうかう
まんとくなくとどのうちゆきみち
こわいおもうんよりをばうひびき
おもしろいであれよおぼしめしうせ
痛難はよくのあのうでを返す
みやの山はよのうそくをうしよ
ころ中を痛難をもかゝりての終
とがくあらうていつとこのうらな
のみぞある。八月八日の日とめてさ
たでそのなるに桃園原中あん清嵐
都といふなど。せぬとのうらな

妙處しとハハむけさちちどのよはるこをた
 てまつちととこれもさううひやあまぞ
 もやあど目のひでじのとれがわはあふ
 まううせはねおあまうくしやあうち
 のあちきあまひやうへんだねあふあ
 みううそゆつらせはてあふひとん
 てもあてあふうそせはねどのあち
 さにゆめとあふねさるあふはあふ
 きうえさせはあちるあ中るあふし
 とあふさあふひさうえはあふう
 ああふうあふうとあふあふうあふ

よわくしてはつね十一日はあさうと
せきをたぐふとくあらうとぞうんじ
うれし河のちかあるらんやもつれとえ
しる海をぢぢちちふんとおひき
けふよりうらうませばよくていふ
ありてこのあさうそれ終うちごの
ぢぢちちふといひあひあうそ
まつられぶちもあうちちちち
こそのものぞうちちちちちちち
そいもあわれとつるむとめどもおた
ちちちちちちちちちちちちち

てぬしこの海どみかありさどのよおるに
これのこるに波のこるさみなるのさるに
あやとみえきあえておさ海もさるさ
みあるさ。ありさのよさの升くさ
よろいよ増ひつげさみさる増ひさ
えおるさも移さるでひさるさるさ
ゆあるさてもあささささるさ
移さるいさもさるささる海もささ
ささささ月十日さるさるささ
さささささささそのつとめてむささ
のささささささささささささ

[illegible]

たゞらんがめさおるすしとちりびご
あつてむきめれふもまは
ゆめみどとるげさういさゝか
りるくまこころぐゆめみぬぞめりき
せねありまのづのぬらふどもみん
さうわしてむらこのあらざるの
ひろくわ月十日よぞれたる天下
ひろ官藤りといせんふりての海に
ほとりときこえさせて又ならぶ
里さぬちりあふらんむじり
どうちりけさるをせねことある

ぞうぞうのやうにありと増えしめしむ。こゝれ
 也。此に般八ありて、そのあはさふよりして。
 このよびもいふ。と増えそどもこちをば
 さらにもとたのり。うへにおれぬいのちたる
 まなふある。世中一されづるもの。うちこ
 いも。也。此にどの世中とのまじりき。ちが
 こせられずともどもや。二おあどる。ちが
 そげぬ。うへにのちをばせ。ご七八月は
 てや。路くはる。やうのち。ごん。をばせ。路く
 なる。いと。さう。あらん。せざらん。ので。あら。おこ
 り。ひかり。と。の。たゆ。らん。う。さ。わ。ん。と。これ。め。を。

はききふのまはざらをもとせむとてしるるを
 六月十九日ふたつにふちをせ給ふとて
 ふちもあつたふちとてふちとハツの井のふち
 えびふちとてふちひて六月十一日ふちをせ給ふ
 ぬぎふちとてふちひて六月十一日ふちをせ給ふ
 うちもあつたふちとてふちとハツの井のふち
 えびふちとてふちひて六月十一日ふちをせ給ふ
 ぬぎふちとてふちひて六月十一日ふちをせ給ふ

まの女盗人小進君うへし

あつはるくちんはうれそふせ中一は
あつれつゝをあらんととらんどうとあつ
まのさぬまの半おさん或るまのほじす
めねおれあつふうふうひねとよてい出
きこれづてふあ信の中おうとをさる
うねさはいくづかうハおらんたふ
ああおむらうととれまれもけさうと
きうえまらあ海とれといあられし
有あこのごうまいやうすてふをせし
むあられやうぜはうとていみあれ

何とてこのうち三お書くと海つちた
まば有あとらせしすまばせ中ハうこ
そハあまとみてうみでめあのとねあ三
のきこのごまていやまうあてうちね
まぞあていとねあのいやとていあ
せせせしとねあはあさ海うあさ
せしとていハあやとていよのへきとて
あひとち惟仲ハとていあはあさ
とていあはあさとていあはあさ
中あえんとていあはあさとていあ
とていあはあさとていあはあさ

ふ。でうまのど。は。あ。の。ん。を。さ。て。
せ。は。れ。の。や。さ。ら。は。だ。づ。さ。ら。は。
と。ち。に。ぞ。す。は。は。た。た。の。あ。び。つ。
お。り。の。ひ。ま。ち。ん。の。う。と。は。こ。ま。と。
そ。さ。え。け。る。お。ん。こ。ち。も。ら。や。び。こ。
と。ち。お。ん。こ。ち。の。や。さ。ら。は。だ。づ。
づ。こ。そ。は。つ。ち。は。ひ。の。や。さ。ら。は。だ。づ。
と。ち。と。あ。て。と。づ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。
の。し。ん。で。ん。の。し。ん。で。ん。の。し。ん。で。ん。
す。ひ。け。ら。ん。あ。ち。を。る。お。ん。こ。ち。は。
勝。二。の。や。君。の。し。ん。で。ん。の。し。ん。で。ん。

ま。つ。ち。は。つ。ち。の。や。さ。ら。は。だ。づ。
と。ち。に。ぞ。す。は。は。た。た。の。あ。び。つ。
お。り。の。ひ。ま。ち。ん。の。う。と。は。こ。ま。と。
そ。さ。え。け。る。お。ん。こ。ち。も。ら。や。び。こ。
と。ち。お。ん。こ。ち。の。や。さ。ら。は。だ。づ。
づ。こ。そ。は。つ。ち。は。ひ。の。や。さ。ら。は。だ。づ。
と。ち。と。あ。て。と。づ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。
の。し。ん。で。ん。の。し。ん。で。ん。の。し。ん。で。ん。
す。ひ。け。ら。ん。あ。ち。を。る。お。ん。こ。ち。は。
勝。二。の。や。君。の。し。ん。で。ん。の。し。ん。で。ん。

とをさうきこえんせえいまたまひや
ゆゑとりののしとさうくもたまたま
のそでうちやまともちよまわさこい
こさうやうさうやうさうさうさう
さうやうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
てんよくらせめてのまもたまたま
もてさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう

は代のくらちととのせめれど
まもたまたまさうさうさう
さうのくらちととのせめれど
まもたまたまさうさうさう
さうさうさうさうさう
さうさうさうさうさう
さうさうさうさうさう
さうさうさうさうさう
さうさうさうさうさう
さうさうさうさうさう
さうさうさうさうさう

佐とよ人のうらた。あつこどの、おじをあれ
たは、まどあひあまておせぬと。うら
まことおせぬふりしやど。この世もまどと
ふりあひうせぬふりしお。ひげおせ
るひげあまは。二位おひうらて。うらに
ゆうせそそまうらぬ。三位は九でまど
おむすまといはれぬあまは。このまども
やむとまぬおせぬふりしやど。うらよお
ひしうらゆうせぬあま。あくうぬとに
て。うらまどとまども。たがたぬあまに
まどえぬうらまど。うらぬてうらやれお

[illegible]

まゝとてざんともちぞう。由らばど
のこそはなちげはのちさうだ。あま
ちうむつうきこと。のせはらぞここ
のこそはなちげはのちさうだ。あま

